

## 60周年を迎える関東地質調査業協会 五十嵐 勝会長に聞く



### 担い手確保・育成、広報活動に重点

関東地質調査業協会（五十嵐勝 民の地盤への関心を高めていくた  
会長、関東と長野県の7都県に支 ための各種広報活動も積極的に進め  
部、会員数87社）が今秋、創立60 ていく考えを明らかにした。

周年を迎える。11月10日に東京都 文京区のホテル東京ガーデンパレ 挙げた課題になっている。

「地質調査業界に魅力がないと、 業の外注化が進み、オペレーター の不足や高齢化の問題が指摘され ている。

「決して楽観はできないものの、 ボーリング作業で最近、若手のオ ペレーターが入り始めている。

「近年は各社とも受注量を増や しつつあるようだ」

「高校の教育課程から「地学」 が除外される動きがあるなど将来 世代の地質離れが心配だが。

「近年の自然災害の多発傾向か ら、地質調査業が防災や復興に果 たす役割も理解され始めていると 感じている。防災展や防災イベン トなどに積極的に出展し、防災意 識の高揚とともに地質調査業への 理解を家庭の主婦層なども含め一 般市民に広げる取り組みが非常に 重要だ。今後も積極的に進めてい きたい」。

「土木工学の境界に位置する知的 産業であり、解析業務を中心に女 性技術者の受け皿になり得る業界 だと思っている」

「技術力の継承も重視している。 協会が作成している『地盤調査の 実務』を今年5月に改訂し、配布 を開始した。10～11月には『地質 調査技術マニュアル』の改訂版も

発行する。土壌汚染対策なども加 え、多様なニーズに対応できる技 術力を養成していきたい」

「近年、現場のボーリング作 業の不足や高齢化の問題が指摘され ている。 業の外注化が進み、オペレーター の不足や高齢化の問題が指摘され ている。

「決して楽観はできないものの、 ボーリング作業で最近、若手のオ ペレーターが入り始めている。

「近年は各社とも受注量を増や しつつあるようだ」

「高校の教育課程から「地学」 が除外される動きがあるなど将来 世代の地質離れが心配だが。